

空の欠片の深いあお。 オーディション用原稿

キャラクターを選び、A・B双方のセリフを読んで下さい。

カスミ

A：総司令部首都管区飛行隊から本隊に配属となりました、カスミです。飛行経歴はまだ浅いですが、皆様と共に空を泳げることを喜ばしく思います。どうぞ、よろしくお願い致します。

B：…私の使命。この島を、この世界を守る…それが正しいのか、間違っているのか。そんな事が頭をよぎる。

ユウリ

A：実弾射撃訓練に参加する者は、無用の事故が無い様、くれぐれも注意してくれ。

飛行訓練はいつもと違う形になる。気を引き締めてかかるように。以上。

B：アイランドリーダーから全機。南西方向及び北東方向から爆撃機の編隊、並びに護衛の戦闘機が多数接近。ニュクス隊及びクロノス隊各機は、爆撃機にお帰り頂くよう、攻撃を加えよ。

カイリ

A：昔から空を泳ぎたいって思ってたんだ。初めて親に連れられて外国に行った時、飛行機の窓から見える空が綺麗でな。時差ボケするから寝ろって言われたけど……ずーっと見てた。

B：てめえ…謝って済む問題じゃねえんだ！結果的に戦果を上げて帰ってきた。だが、それはきちんとした指揮系統あってこそだって、お前も当たり前にはわかってるだろ？それをなぜ俺の命令を無視して勝手な飛び方をした！

キリカ

A：タリホー。5隻確認。全て高速の小型艇。…国籍が認識できるものは無い。ソールよりインディゴブルー。警告を開始しますか？

B：…どうしても、イメージが出来ない。自分が先頭を引き、隊を率いる姿。隊長がいない空で、私が泳ぎ続ける理由があるのだろうか。

ツユキ

A：だ…だってしょうがないじゃん！ああでもしないとあいつらずーっとツユキのお尻狙ってたんだよ！？
それを振り払う為に必死で逃げてたんだもん！

B：だって、ツユキ達は軍の人間だもん。命令に違反したら、この場所にはいられない。
…ううん。ツユキは……殺されるかもしれない。命令に違反するなんて、ツユキには絶対出来ないから。

アサミ

A：ああ、大したことじゃなかったわ。カスミとツユキとイオリの学習プログラムについてだった。
私にも手伝って欲しいんだってさ。全く。驚かせるなっつーの！ってね。

B：仕方ないじゃない！私達は他国の生まれ。アレミア軍にいくら忠誠を尽くしても、
どれだけキルレシオを上げて、どれだけ味方を守っても、私達は余所者なの！

イオリ

A：まあね～。あまりにも喋りすぎるからって、TACネームもチャターにされちゃうくらいだから。
でも、あたしはこのTACネームに誇りを持ってんだよ。だって、そう言うものじゃない？

B：他国から来たスパイだって……そう思われても仕方ないって、ずーっと思い続けてきたんです。
だから、あたしはアサミンみたいにはなれないなーって。それが、あたしの限界なんですよ。多分。

オトカ ※男性でも女性でも構いません

A：ボクはやめておきます。宿題やらないといけませんから。ツユキさんもイオリさんも、早くやらないと
司令に怒られますよ？

B：アサミは……アサミはどうしてそんなに冷静でいれるのさ！だっておかしいじゃないか！
いくらボク達がよそ者でも、こんな扱いを受ける理由は無いはずだ！そうだろう！？

テツロウ

A：ミサイル命中！よくやったテルミネス。各機、全機撃墜を確認した。ミッションコンプリート。
さあ、家に帰ろう。みんな、お疲れ様。

B：人類の世界から、戦争の文字を消す。壮大な話を、君はやろうとしていたのだね。
……私はまだ、軍でやることがある。だから、今もまだ軍属でいることを選んだ。ただ、それだけさ。

ハルヒコ

A：まーまーいいじゃねえか！コイツラが暴れてきた分、俺たちが整備をする。そんでまた大暴れしてもらえりゃ、それが一番なんだっつーの。そうだろう？

B：二度と戦争を人の手で起こさせない為に、お前は命を弄ぶことを選んだ…あんな計画に関わること自体が、愚かなことだとお前は何か気づこうとしないんだ！

ユキ

A：「お疲れさま～」じゃないわよ！私プリフライトチェックの時に言ったよね！？無茶な飛び方するなって！いつもいつも言ってるでしょ！？機体のことをちゃんと考えて飛べって！

B：この子は…勉強が苦手ですぐにふざけて、口も多いしすぐ泣くし…でも、立派な人間だよ。アンタは……そんな事もわからないの？

シゲル

A：この計画が成功すれば、世界は変わる。変えられる。…私は、そう強く信じている。変えてやる。変えてみせる。そう、強く願っている。

B：…私に指図するのか？空を泳ぐこと以外に、お前に存在価値や存在意義があるのか？余計な質問をせず、任務を遂行することがお前の存在意義だ。